

アルパック ニュースレター



アルパック ニュースレター もくじ

2000年3月1日

- ニュースレター 100号を踏まえホームページを開設します…… 2
- 二極化を迎えて店が増え続けるナディアパーク周辺 …………… 3
- 地域共生の土地利用を考える …………… 5
- 和束町営第1中西住宅が竣工しました …………… 6
- 再開発事業による広尾ガーデンヒルズの
管理を見てきました …………… 7
- 所員一人ひとりの一ロメッセージ …………… 8
- 新刊旧刊書評紹介 …………… 15
- まちかど …………… 16

NO. **100**

ニュースレター 100号を踏まえホームページを開設します

～より充実した所員一人ひとりのホットな人間発信をめざして～

金井 萬造

1983年（昭和58年）7月「このニュース・レターは、ARPA・K-地域計画建築研究所とその人間に興味をお持ちになっている方、ひとこと文句を云ってやろうと思っていられる方のための“受像機”です。」で始めたニュースレターは、本号で100号を発行する運びとなりました。約17年あまりが過ぎ、その間、読者の方からいただいたご意見や叱咤激励を大切に、所員一人ひとりが手紙感覚で「ニュース」と「レター」をお届けするという基本的な姿勢は今日でも変わりません。改めて、ニュースレターとおつき合いいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

ニュースレター0号を発行した年は、弊社の名古屋事務所を創設した年でした。その後の東京事務所開設も含め、全国に地域事務所を展開していく中で、各地域の情報を感動とともにお届けし、人と人の繋がりを大切にユニークなネットワークを育てていきたいと思った時期でもありました。

それから時代は大きく移り変わり、ファクシミリの日常化、携帯電話やインターネット、電子メールなどの急速な普及をみるに至っています。情報発信のあり方もグローバルで同時・双方向など大きく変化してきています。アルパックもその例外ではなく、時代にあった情報発信が求められてきています。

このたびニュースレター100号という一つの節目を向かえるにあたり、新しい情報発信ツールとしてホームページを開設することにいたしました。開設には若手所員が中心となって自主的な取り組みで準備を進めています。近々、新鮮な内容で発信できると思います。

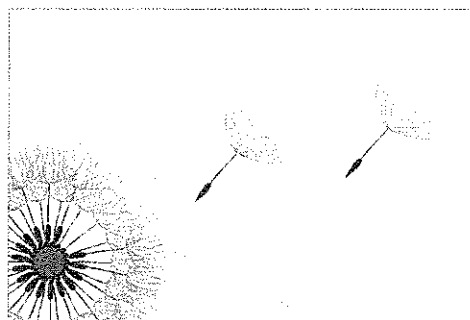
ホームページの開設は、より多くの方々に

まちづくりや地域づくりの情報を提供するだけでなく、アルパックの考えや情報を発信するとともに、アクセスされた方から感想や情報をいただき相互に意見交換する新しいコミュニケーションツールの一つとしての活用も考えています。

ニュースレターは、人と人との心を伝え繋げる初心の精神を大切にしながら、アルパックの業務や活動を紹介するだけでなく、所員の一人ひとりのホットな人間発信の場として、これからも大いに活用していきたいと思えます。100号を記念に、本号と次号（101号）にわたり、所員と読者の方々の距離をより近づけたい思いで、紙面で「所員一人ひとりの一口メッセージ」を顔写真とともにお届けします。

今後もニュースレターは所員の手づくりの編集を大切にしながら、より充実した内容で掲載するために新しい工夫や改善に取り組んでいきます。また、読者の方々へのあたたかいネットワークの中で成長し、地域社会の発展に貢献できるような発信をめざしていきたいと考えております。みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

（代表取締役社長 かない まんぞう）



事務所周辺事情

二極化を迎えて店が増え続けるナディアパーク周辺

尾関 利勝

事務所移転後3年経ちました

ナディアパークに事務所を移して3年半になります。元々はこのビルの開発企画を名古屋市から委託され、土地信託事業によるコンベまでの橋渡しをさせていただいたこと、バブル崩壊後の開業で空き家が出てはどの責任感もあって、所内激論の末、多少賃料が高く経営が苦しくても、計画した案件の行く末を自ら体験し、これからの計画に役立てようとの合意と決断で移転しました。

実証と勉強が移転の効果

激論の末の移転効果として「①来訪者が増えたこと、②面積を節約、景色の良い広い会議室を確保した結果、業務の他にNPO活動や勉強会など会議利用が増えたこと、③設備条件が整ったビルで、勤労環境が格段に健康的になったこと、④賑わいと一体のビルであるため、毎日の出勤やアフター5のくつろぎがしやすいこと、⑤デザインセンターやロフト、書店などの複合ビルであるため、人との出会いや必要品の購入など、活動の利便性が高いこと」などがあげられます。このような計画的複合ビルの持つ利点を入居することで確認でき、同時に「自分たちが働きたい環境を前提にたてた企画」の正当性が実証できたことが第1の勉強になったことです。

この計画は、元々単独のビル計画を意図しただけでなく「地域のまちづくりに貢献する開発」を主題として取り組み、行政関係者と地域の皆さんとの話し合いなど様々な努力がなされ、その結果「ナディア効果」と言われるような予想以上の大きな効果を周辺地域に波及させ、今も続いています。

事務所周辺探訪

ナディアパークのある栄三丁目界限は城下町の南に位置した江戸時代から続く商人町で、本町通の間屋さんや広小路通の商店街の背後にあつて、間屋、金融業が集まり、三業地としても賑わった所でした。界限は地域の南にある若宮八幡社の氏子が多く、ここにある「からくり山車・福祿寿」は地域の旧八町で順次、祭礼の当番をしているものです。

明治以後は、証券取引所（近代建築）の立地とともに広小路付近に金融機関が集積、現存する数少ない広小路の銀行近代建築群の様式建築が、かつての目抜き通りの繁栄を今に伝えています。このような都市の中枢性を背景にして、このまちは都心のホスピタリティゾーンとして栄えてきたのですが、栄四丁目ウォーク街（旧称女子大小路）や錦三丁目飲食街のめざましい成長とともに、少し影が薄れ、流通構造の変化による間屋業態の減少などで、空地・駐車場が目立ち始めていました。都市の賑わい中心形成には個性がある

ところで、大都市中心部における飲食街は都市毎に少し違った様子が見られます。例えば現在の東京の場合は、銀座、新宿、池袋、渋谷など山手線の駅を中心に多極的に展開する用途複合型飲食街です。大阪は、古くからキタとミナミに二極化した用途複合型飲食街となっています。特徴的なのはミナミで、幾つかの劇場を核に食い物屋が表だつ他の大都市には無いエンターティメントゾーンとして際だっています。ところが、名古屋や京都、福岡は鉄道駅周辺ではなく、昔からの都心に飲食街が形成され、しかもスナック・バーな

どのビルが建ち並ぶ用途純化度の高い飲食街を形成しているのです。これは人口30万～50万の地方県庁所在都市にも共通しています。

このことの検証は改めて、アルパック全社のネットワークを活用した都心繁華街形成の研究に譲りたいと思います。ご期待下さい。
栄三丁目の復活

別図は移転後2年目の頃のナディアパーク周辺～栄三丁目一帯での新しい店舗開店例と空地・駐車場のピックアップをもとに、その後の新店舗開店例を追加したものです。悉皆調査ではありませんから、他にもまだあるものと思います。私達が気づいただけでも、2年目で概ね30店舗の開店があり、その後も引き続き新店舗が開店し、現在までにおよそ50店舗ほどが新規開店しています。飲食店が主ですが、物販店や美容院など多彩な店舗が増えています。名古屋吉本も新栄から栄三丁目に移転してきました。不況のさなかにきしくも店舗出店が引き続きミニバブル的現象が発生し、この勢いからナディアパーク周辺では新たに再開発の動きも始まっています。

昨今、開発事業の費用対効果が問われています。多少手前味噌かもしれませんが、これほど周辺の変化にプラスの影響を与えた開発

は、長い間都市開発に携わってきて、福岡のキャナルシティなど数少ない例だと思います。

東京の丸の内再開発も有楽町と結ぶ路面型専門店街を形成していることで同様の意義を持っているかもしれません。改めて、開発というものは周辺にプラス効果を与えてこそ意義があるものと痛感しています。

このことが地元のミニコミ誌に取り上げられ、地域として栄と大須を結ぶ一帯が新しい商業展開ゾーン「サカエミナミ」として注目され、それを導き出した「ナディア効果」と言われている所以です。

名古屋に二極時代が来るか

昨冬、JR東海名古屋駅セントラルタワーズのオフィス棟がオープン、順次春から6月にかけて百貨店、ホテルがオープンします。

名古屋で初めての200mを超えるビルで、最上階展望スペースが有料で公開され、濃尾平野一帯を見渡すことのできる眺望を求めて、連日見物客で賑わいを見せています。

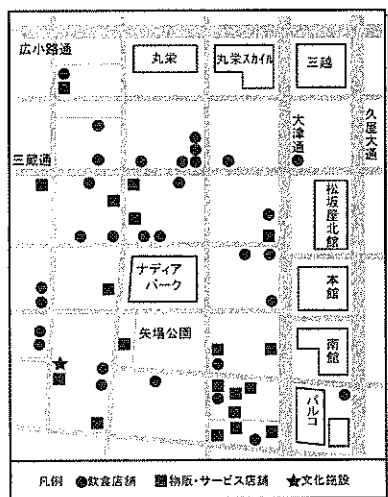
このビル全体の完成で、日本で最大の売り場面積を持つ百貨店ができることから、都心栄地区との競合が始まろうとしています。

一極集中と言われた名古屋の都市構造に二極化を生み出す開発として注目されます。

この状況を想定した栄の既存百貨店のリニューアルが進んでいます。三越、松坂屋は店舗増床をめざした再開発を進めようとし、ナディア効果の影響の少なかった丸栄は店内のMDと業種構成を大幅に刷新し、今流自己表現派の若い女性を呼ぶファッションフロアと中高年女性を呼ぶ地下の食品フロアの充実でがんばっています。

このような地域競合意識は名古屋で始めての事と言って良いでしょう。今後の動向が注目されます。改めて状況が定着した頃に再度レポートしたいと思います。

(名古屋事務所 おぜき としかつ)



「地域共生の土地利用を考える」

— パートナーシップ型のまちづくり —

石本 幸良

京都の都心部、姉小路界隈で、開発事業者の用地を対象として住民、事業者、行政のパートナーシップによる土地利用を考える検討のまとめができましたので、報告します。

対象地は平成7年に11階建ての分譲マンション建設予定地として計画されていたものの、地元住民の反対運動もあり、8年3月に計画が白紙撤回された用地です。10年の夏に地権者から、地域でのまちづくり活動を踏まえ、地域の人に受け入れられ、ともに享受しあえる施設建設を目指したいと提案があり、地元との協議の上、「地域共生の土地利用検討会」として11年1月に発足しました。

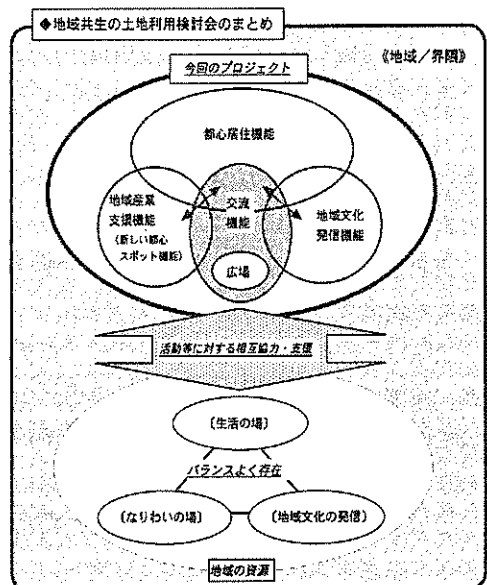
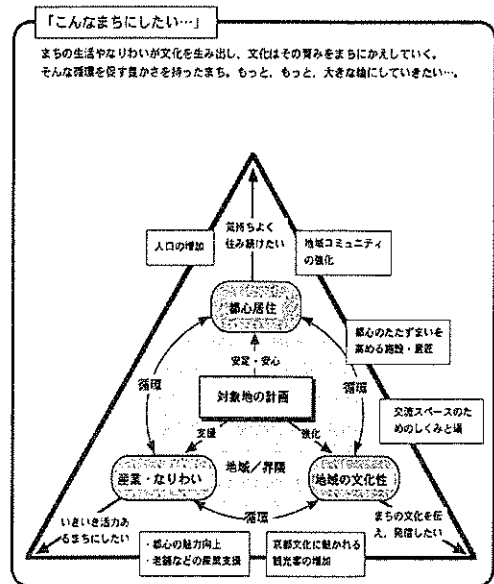
検討会は住民と事業者を結ぶパートナーシップのまちづくりとして、地元町内会と市民活動グループ、地権者、(財)京都市景観・まちづくりセンターと学識経験者で構成、私もまちづくりアドバイザーとして参加しました。

検討会では、今回の計画をまちのシステムの一部として捉え、空間化していきたいと考え、まちの人が望む「まちの将来像」を探りながら、計画が地域全体のまちづくりに貢献できるよう、機能イメージについて協議を重ねました。地域の持つ「居住」「文化性」「なりわい」の三つのバランスを、計画の中でうまく実現させ、計画によって地域全体の活力や魅力を高めるために、検討会では、対象地の望ましい姿・形を考えるだけでなく、地域の「ひと」が介在することによって、地域に開かれた施設運営（相互協力・支援）のあり方を模索しています。

今後はこの成果をもとに、計画の具体化に向けた取組段階に入っていきます。

(なお、詳細な内容につきましてはパンフレットを発行していますのでご連絡下さい)

(京都事務所 いしもと ゆきよし)



和東町営第1中西住宅が竣工しました
山崎 博央

和東町は、お茶の名産地としても知られており、周囲の山一面にお茶畑が広がっています。その和東町に、この2月、町営第1中西住宅が竣工しました。鉄筋コンクリート造2階建て3棟、全9戸の住宅です。住戸については、各棟同じタイプで、1階が1DKタイプ2戸、2階が3LDKタイプ1戸の計3戸となっています。また、茶畑の山並みを背景としたこの住宅は、山から吹いてくる風の通り道をつくるため、棟を分けて配置しています。風の出口には広場があり、天気の良い日などは、ベンチに座ってひなたぼっこをしたり、近所の人たちが寄って、世間話をしたり、などなど。

こんな住宅ができました

1階の1DKタイプの住戸は、主に単身高齢者用の住戸で、部屋間の段差をなくしたり、玄関や便所、浴室に補助手すりを設けたりして、お年寄りや体の不自由な人も安全に、不自由なく住めるように配慮しています。在宅介護を考慮して、和室と洗面室の間を仕切っている壁は取り外しができるようにしてあり、直接洗面室への出入りができるようになっています。また、便所には、介護人が介助できる空間を設けており、将来的な生活形態の変化にも対応できるようになっています。

2階は、一般ファミリー世帯用で、和室2室、洋室1室とLDKの3LDKタイプとなっています。各部屋は、すべてが南に面しており、陽当たりもよく、快適な居住環境となっています。また、日常の生活管理に配慮し、すべての住戸に勝手口を設けています。1階と同様、住戸内の段差はすべて解消し、年を

とって住み続けることができるように配慮しています。

構造について、設計当初は、2階建てということもあり、木造あるいは木造と鉄筋コンクリートの混構造など、他の構造形式も検討しましたが、上下階に違う世帯が住むため、上下階の「音」の問題があることや、耐久性の面からみても優れているという点から、鉄筋コンクリート造としました。

特色としては、断熱性を高めるために、外断熱を採用したり、結露対策として、住戸内の空気が循環するよう工夫をしています。また、環境面に配慮して、揮発性物質を抑えた、低ホルムアルデヒド材を使用しています。

いつか、そっと見に行きたい

少子高齢化は全国的な問題となっています。ここ和東町も、若い世帯が町外へ出ていくため、年々高齢化が進んでいます。今回の住宅は、単身高齢者が安心して住むことのできるよう配慮していますが、その他に若い世帯が町内に住める、住みたくするような住宅、そして、違う世代の人たちが、触れあうことのできる住宅になることを目標にします。

いつか、この住宅を訪れるとき、あのあずまやの下から、楽しそうな笑い声が聞こえたら、その時は、小さくガッツポーズを決めたいと思います。

(京都事務所 やまぎき ひろひさ)



再開発事業による広尾ガーデンヒルズの管理を見てきました

齋藤 侑男

再開発でできあがった300戸の住宅の住まい方がわからない、マンション管理とはどういうものか、勉強に、ということで、参加組合員企業の協力で、地権者の人と一緒に広尾ガーデンヒルズ(東京都)を見に行ってきました。

広尾ガーデンヒルズは、昭和56年から工事が始まり竣工は62年、入居は58年から始まっていますから、今年で15年位経っていることとなります。もともとあったのか開発後植えられたものかはわかりませんが樹木が豊かに育って前庭を覆っています。指定容積率300%ということもあって、建物は14階建ですが住棟の圧迫感が少しも気にならない環境を備えています。昨年末には第二期長期修繕を完了したということで、外装タイルのつかれも少しも感じられませんでした。

区域面積6.6haの区域に、15棟、約1200戸の住宅があり、平均住戸規模は共用部を含んで約150㎡です。3棟前後をひとつのゾーンとしてまとめて名前をつけて管理組織をつくっており、それぞれに支部運営委員会ができています。そして団地全体で理事会を構成しています。理事会・運営委員会はそれぞれ毎月会合を持っておられるとのことでした。

管理実務からいうと、まず窓口ですが、センターゾーンに管理センターがあり所長以下6名の職員がいて、窓口業務は24時間受け付けています。ここでの一番の特徴は荷物の預かりということで、繁忙期にはアルバイトが動員されるほどということです。次いで、各ゾーンには、一ヶ所管理事務所があり、通勤の管理人が1名配置されています。サウスゾーンは特別で、ゾーン入り口に門扉がついており門脇に管理センターがあつて24時間管理

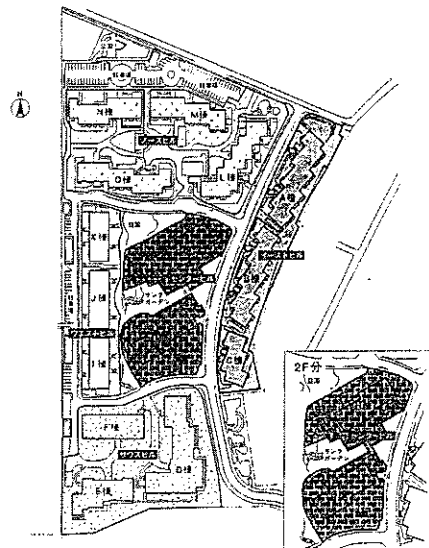
人が常駐しているほか、ゾーン内の各棟入り口には英語の通じるコンパニオンが夕方5時まで配置されています。

警備関係の職員は10名が交代で勤務しており、夜間巡回を含めて24時間体制になっています。清掃関係は16名で、各部の清掃のほか、各棟地下のごみ集積場の整理以降団地外への排出までを行っています。そのため、居住者は常時ごみ出しができるようになっており、ごみ集積場も清潔に保たれています。

その他、営繕担当が4名いて、交代で各部の修理補修にあたり、専門業者との対応を行っています。専用部分の不都合を含めて緊急時の対応もしているようで、専用部分に係るものについても小規模のものは無償で対応しています。さらには「建物の寿命は管理次第で長くすることができる」ということで、長期修繕計画も当初から提案されており、5年目塗装、10年目防水改修、15年目配管改修など、5年単位での実施と全体見直しを目指している様子でした。

バブル時期、転売価格が、販売時の数倍では収まらないまでに高騰したこともあるようで、特別の仕様と管理グレードの住宅団地を堪能してきました。

(東京事務所 さいとう ゆきお)

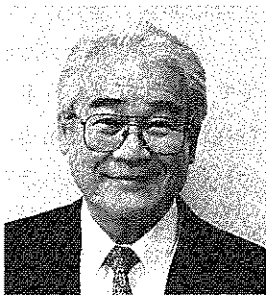


< 所員一人ひとりの一口メッセージ その1 >

21世紀へー私の抱負

取締役会長 三輪 泰司

2001年8月27日で満70歳。振り返れば、保育園連盟で子供達と33年、ロータリーの国際青少年交換で若者達と18年、そしてファミリーと7つの住まいのコミュニティで69年。

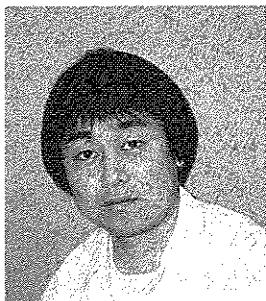


新しい世代、世界の仲間、そして家族と地域共同社会の3つの中で生かされ、働き、奉仕してきました。これは、21世紀への人間達にとって、原点だろうと感じています。

身近な感動を大切にしたい

石井 敏史 (京都事務所)

きれいな夕日を見たら立ち止まって眺め、雨上がりの虹を見つけたらそちらに向かって歩いてみる。ついつい急ぎ足になりがちな日常生活、そして変化する社会の中、身近な感動を人に伝えることを大切にしたい。



対話と議論と参加を通してのまちづくり

石本 幸良 (京都事務所)

まちづくりとは・地域の持つ「居住」「なりわい」「文化性」の三つのバランスを地域の内外の人が意識・共有して継承・発展させること。様々なまちづくりの場面に参加しての現時点での私の到達点です。



組織を越えた人のネットワーク活動に取り組む

代表取締役社長 金井 萬造

複雑で多様な課題を含んだ仕事に企業を越えて各専門家が力を合わすことができたらずばらしいことだという夢の実現に取り組んでいます。もし、うまく展開できるならば地域の活性化にも、さらに貢献できると思います。

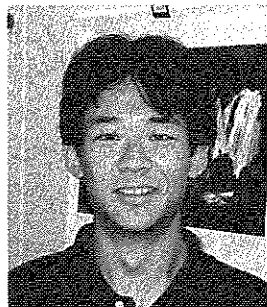


いろんな「目線」で物事を考えよう

石川 聡史 (京都事務所)

日々の生活の中で感じることを、考えることが仕事につながっています。

その経験を通して、いろんな人の価値観や考え方を知り、それを仕事に役立ていければ、と思っています。



食（農業）と住（建築）の達人をめざす

稲岡 宏 (大阪事務所)

21世紀は個人とそのネットワークが主役になる時代です。組織や仕事だけにとらわれずいろんな仲間をつくり、その中で大いに語り、遊び、交流を深めながら、自分を高めていきたい。それを仕事にも生かせればと思っています。



↑↑ post “花いっぱい運動” @B. C. 21

鵜飼 奈弓 (京都事務所)

世の中を悪くしようと考えてるひとつあまりいないと思うのに、何故こんなに暮らしにくいんだろう…？ずうっと変わらないmy cherish theme 《いごちのいい空間》 ippaiのsekaiへcheck, check, movin' on!



建築から社会福祉へ専門分野をひろげつつ

大河内 雅司 (大阪事務所)

「生活を背景としたコミュニケーションと出会いを大切に。リカレントで社会福祉を学んだことをきっかけにして、自分を生かせる場に飛び込んでいきます。」



走り出したら止まらない！ぶつかっても・・・

剣持 千歩 (名古屋事務所)

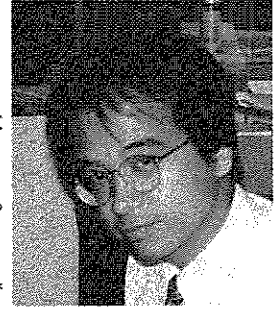
これまでも目指すものを探しながら生きてきたけれど、21世紀まで1年をきってしまった。世紀を跨ぐこの時期をアルバックで過ごすことが人生においてどんな意味を持つのか。よかったと思える生き方をしていきたい。



アジェーション、フリクションに負けない！

内村 雄二 (大阪事務所)

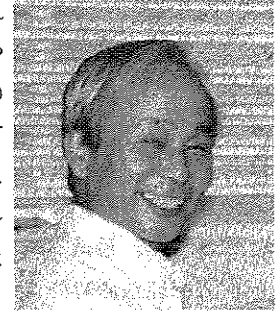
恐らく現役の残り時間は、20年前後。自分の身のまわり（生活と環境）を再度みつめることから、プランニングやデザイン（論）を自分流に構築したいです。同時に、職場の仲間とともに人間的成長をめざします。



楽しく仕事ができるのは皆様のおかげ

倉本 恒一 (大阪事務所)

私は、皆に喜ばれる温泉施設づくりやみやげづくりを町の人々と一緒になって創り上げていけることがなによりも楽しく、ありがたいことだと感謝しています。



計画から実践行動へ、国内から海外へ

小泉 春洋 (大阪事務所)

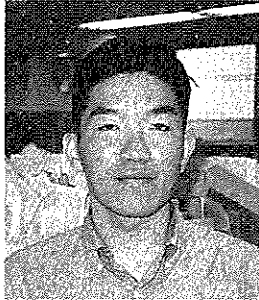
最近のごみ関連業務では、計画づくりのみが要求される時代は終わり、市民・事業者をどう実践行動へ導くかが現在問われている。また、昨年・一昨年には、海外のごみ質実態やごみ処理・リサイクルについて多く学んだ。これからは、計画から実践行動へ、国内から海外へ、目を向けて仕事をしていきたい。



近況

高野 隆嗣 (京都事務所)

京都に住んでいるのだから、こんなお家に住んでみたい。妻の一言で公団住宅から移り住んだ戦前町家。体の芯まで凍える寒さに耐えつつ、今夏の「地蔵盆デビュー」を心待ちに、指折り数える伏見桃山の東夷かな。



成り立つ筋道が見えると楽しくなります

齋藤 侑男 (東京事務所)

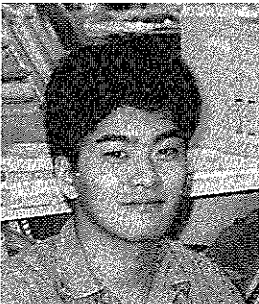
これまで、複数関係者の意向を基礎に法律や技術の専門家と相談しながら成り立つ仕組みを模索してきました。最近、都市再開発法の専門家とご一緒する場面が多くあります。



感動のないまちづくりなんて・・・

嶋崎 雅嘉 (京都事務所)

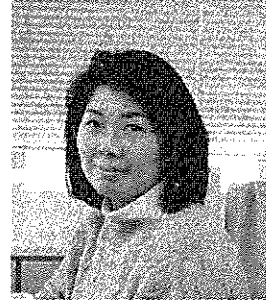
安心して暮らすことができ、人々が出会い、刺激にあふれ、子ども達の元気な声があちこちで聞こえ、お年寄りや障害者の方もまちなに歩くような、まちづくりに取り組み、まちの人たちと、感動を分かち合いたい。



Start from the beginning

後藤 久美子 (大阪事務所)

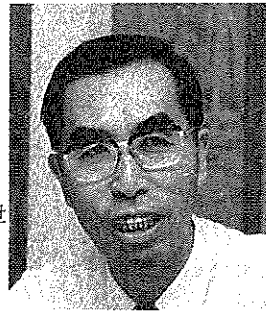
働き始めてからずっと廃棄物と携わってきた。1度の挫折と3度の再出発。それでも廃棄物しかなかった。これからも私の仕事は廃棄物。21世紀もこれで行く。



地域おこしや環境分野の“実践型シンクタンク”

重本 幸彦 (大阪事務所)

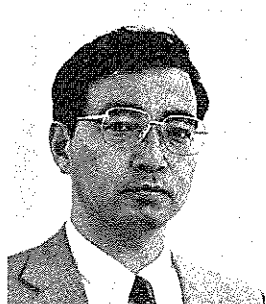
本格高齢社会は、全国的には20～30年先。これから第2次ベビーブーム世代が“ヤング文化”を盛り上げ、親の団塊^{だんかい}の世代も50～60代で“シニア文化”^{もみじ}が紅葉の輝きを示す。21世紀初めは、ほんのり明るい。



人間、地域、地球の価値をより高めるために

杉原 五郎 (大阪事務所)

昨年の秋、「現代コンサルタント物語」シリーズの4冊目をまとめた。〈ひとを大切にする〉〈地域の価値を見つける〉〈地球とともに生きていることを実感できるようにする〉、このことを21世紀を生きる羅針盤としたい。



「常識」と「非常識」の海を自由に泳ぐ人!?

角南 禎子 (大阪事務所)

発想と目的を泳ぎと鍾にして、新鮮な空気を胸に持ち、「設定された常識域」と「創造する非常識域」の海を自由に泳ぐ人になりたい。目前に広がる21世紀を泳ぎ切れるよう持久力とバランス、泳法（技術）を会得していきたい。



「地球的」視野で

高田 剛司 (大阪事務所)

昨年、2年ぶりにインドネシアを訪問した。そこで感じたことは、環境問題や都市化に伴う問題がさらに進んでいたこと。21世紀は「地球的」視野を持ちながら、地域に根ざしたまちづくりに取り組んでいきたい。



「できることから少しずつ」

高橋 はるみ (京都事務所)

昨年子供の頃に遊んだ川が、ごく一部ではあるけれど自然に近い川底に整備され直されました。少しずつ水藻や虫が戻っています。自然は繊細でたくましい。私もそうありたいと思います。



「昼スペシャリスト、夜コンビニパーソン」

竹野 潔 (大阪事務所)

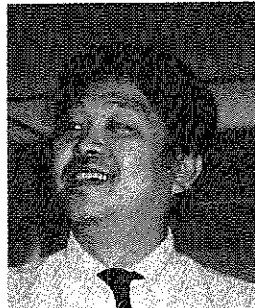
以前のなんでも揃うデパートやスーパー型から、身近で24時間オープン、しかも最新の商品が揃うコンビニ型か、それとも色の濃い個性的な専門型に変身します。…二重人格が必要となりそうです。



幅広く、柔軟に、冷静で（こうありたい）

田中 一衛 (名古屋事務所)

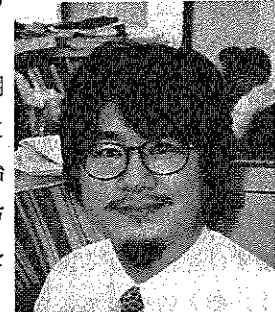
名古屋事務所に入社してから、9年が経とうとしています。特に今年は、市街地整備計画等から産業振興施策関係へと、業務分野の大きな転換がありました。初心に帰る気持ちで、取り組んでいきたいと思っています。



「21世紀へ・丹後の棚田で田植えをした」

中嶋 秀介 (京都事務所)

京都府大農学部の学生さんと合同で、舞鶴市西方寺平の棚田をお借りし、春に畦付から手作業で始め、秋には地元の方々を招いて収穫祭をしました。



農作業を軸とした時空間・文化にほんの少し触れた気持ち。

現地主義でまちづくりを実践する専門店

中塚 一 (大阪事務所)

アルパックという商店街の中で、物事の本質を見抜くため、ひたすら現地主義に徹しまちづくりを実践する専門店を目指します。最後に一言「まちづくりは会議室で起こってるんじゃない。現場で起こってるんだ。」



人のいいコンサルタントの私

西村 研二 (名古屋事務所)

「君は人がいいからコンサルタントに向いているよ」という恩師の一言でコンサルタントとしての自分がいます。しかし、人の良さや日々の仕事にどう関係があるかが未だに分かりません。



あなたの地域の元気づくりをお手伝いします！

原田 弘之 (大阪事務所)

総合計画から地域おこし、棚田保全やイベントまで、地域ののびとと楽しくやっています。元気づくりはいろいろです。まずは連絡待ってまず。個人的相談でもOK。業務委託ならなおOK。

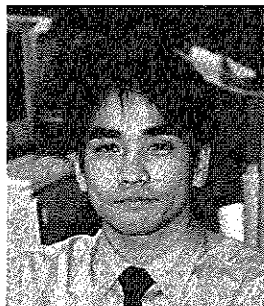


E-mail: harad-hr@arpak.co.jp

「しなやかに地域の空間脈を描く」

永濱 幹雄 (京都事務所)

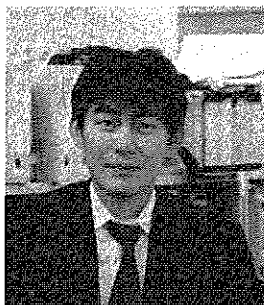
2000年1月1日よりアルパックの仲間となりました永濱です。21世紀を特別意識することなく、今の現実をしっかりフォーカスして地域空間づくりを考えた結果、「21世紀らしい」ものができればなと思っています。



"No Try No good, No Guts No Glory"

林 孝昌 (大阪事務所)

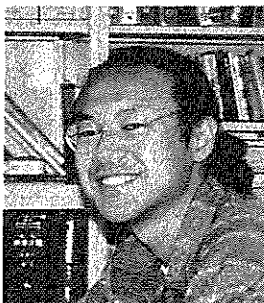
今30歳の私が40歳までに、より賢く、より強く、より激しく、より優しく、より大胆になる事で、楽しくて美しい人生を歩むための土台を必ず作ります。



「気持ちいいこと……」

原田 稔 (大阪事務所)

包み込まれたときのぬくもり、やすらぎ、やさしさ、感動、至福、愛、……、建築空間をとおして人に何かを与えられればなあー。



A murmur of the optimum optimist.

廣部 出 (京都事務所)

感は動なり一感じるってことは心が動くってことだ、とかいう話。感動のあり方の片方は知の眼差しを嫌う逃げ水で、編まれた英知を解していく感動とは、き



っとトム&ジェリーの関係ですね。仲良くケンカが○でしょう。

情智ともに備わる人でありたい・・球体人

福井 守 (名古屋事務所)

「私の想い」人の生きる姿に最終形はない。自分が描く虚像への到達感に勘違いであり、それは次への通過点でしかない。



人に夢・欲・無意識がある限り、この愉快的迷走は永遠に続く。また、人の生きる‘まち’にも最終章はない。

現課題は「自分と正直に向き合うこと」

増満 誠 (東京事務所)

今まで大切にしていた荷物(経験・考え方・立場)をいったん横に置いて、課題に対し「どうしたい?何が出来る?」と正直に問いかけ、どんな答えにも、ごまかすことなく行動したいと考えています。



私の名古屋まちづくりのテーマ

福井 秀樹 (名古屋事務所)

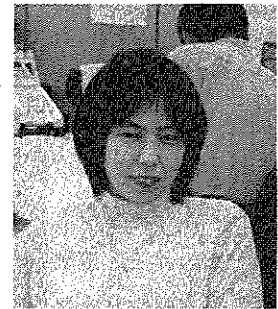
名古屋を素晴らしいまちにしたいとここに入社し、9年が経ちました。さて、素晴らしいまちとは?父親となった今は、家族のふれあいあるまちづくりが日々の仕事の彼方にあるテーマだと切実に感じます。



自然と暮らしのラブラブな関係

福岡 雅子 (大阪事務所)

私が育った奈良の町では、家並み近く緑の中に鹿が棲んでいます。町の人たちには、生き物との共生が当たり前の日常生活です。自然の中でナチュラルに暮らす。環境の仕事ライフワークに選んだ私の、根っこです。



【20××年】

松岡 浩史 (大阪事務所)

このたび松岡グループ会長に就任した、松岡浩史氏にインタビューしてみました。



「いやあ昔は、ごみみれになっていろいろやったものだよ。」と、グループ傘下のコンサルタント会社時代をゆっくりと語った。

21世紀の都市計画法

松本 明 (京都事務所)

1968年に新都市計画法が制定されて30年余り、長期的にみて、現代都市の「建設期」は終息に近づいており、21世紀の都市の「成熟期」に対応した、新しい法体系を構想してみたい。



「都市と農村を翔ける」

山口 繁雄 (京都事務所)

20世紀は、都市化と工業化が進められました。地球環境問題を引き起こしました。

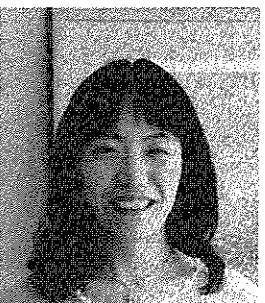


21世紀は、都市と農村との共生を追求しなければなりません。その架け橋として頑張りたいと考えています。

「21世紀」

吉村 礼子 (大阪事務所)

二千年、私にとっては新たな出発の年でもあります。21世紀ですか・・・不安はあるけどそれよりも期待のほうが大きいです。夢中になれることを沢山やりたい。どんな人生になるのか楽しみです。



“市民社会の成熟化を楽しみたい”

森脇 宏 (大阪事務所)

今後さらに進む市民社会の成熟化に伴って、選択、自己実現、NPO等をキーワードに、社会システムも変わってくると思われま。新たな社会システムの構築を、楽しみながらお手伝いしたいものです。



目立たぬように。はしゃがぬように。

山崎 博央 (京都事務所)

食事は楽しくやりたい。仕事も楽しくやりたい。なにごと、やるからには楽しくやりたい。まず、肩の力を抜き、そして、どこに楽しみがあるかを見出す。常に、今以上を求めていきたい。



<編集部より>

100記念特集として50号から99号までのバックナンバーリスト(別冊)を作成しました。在庫が少しある号もあります。在庫のない号はコピーを用意いたしますのでご希望の方は、編集部までご一報ください。

新刊旧刊書評紹介

木村 政雄 著

集英社新書

「笑いの経済学」—吉本興業・感動産業への道

紹介 三輪 泰司

ひょっとしたら、我々のライバルは、吉本興業と大学やないかと思うてたら、そうなってきましたね。

ライバルは、パートナーにもなります。立命館大学と我社は、キャンパス計画の委託を受けたり、京都事務所副所長が講師を勤めたり産業社会学部の研究室と協同で、地方自治体の総合計画をつくったりしてますし、吉本興業は立命館大学とインターンシップ契約をしているそうです。

それぞれ、コンテンツは違いますが似ています。関西に根っこをおいて全国に拡げている、マンパワーで成り立っている、そしてちゃんとしたマインドをもっていること。

アルバックが35年も前から取り組んできたまちおこし、地域づくりに大学が加わってきたと思うてたら、吉本もやってはりますわ。

この本で、足下の大阪市海洋博物館のプロデュースから岡山市・金沢市の中心市街地活性化事業、岐阜県や長崎県の町など、吉本の地方自治体のまちおこしへの参画が紹介されています。

アルバックも、中小企業向けの環境読本を大阪弁でつくったり、活動の範囲をどんどん拡げています。

吉本興業の常務取締役である木村さんは吉本の目標はディズニー・エンタープライズだと言っています。私もアルバックの目標はディズニーとソニーやないかと考えてました

「マーケティングも総研（シンクタンクのこと）もいらない」という説も賛成です。我々はシンクタンクやない“ドゥー・タンク”やと称しています。プロジェクトを推進する段階にはいなくなる無責任な奴や、コンサル報告調の文章にはうんざりしてます。

コトを動かすのは感動から。ウラでフィジ

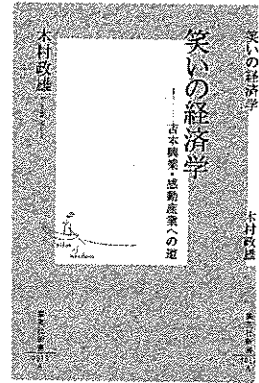
ービリティ・スタディーをきちんとやっておきますが、大事なのは印象とか感じです。ソニーはIT技術を基礎に、エンターテイメントへも進んでいます。我々には、aiboを生

んだり、プレステ2を作ったりはできませんが、想像力やデザイン力では勝負どころ。五感の内、温泉に続いて味覚にも挑戦したいです。

表題に「経済学」とありますように、この本は、経営の大阪の商いの指南書でもありません。組織・人事管理論は我々にそっくり。

大学は装置産業みたいだし、吉本も劇場を持っていますが、いずれも経営資源の中核は人間。大学改革に首を突っ込んで、教職員の採用もしました。我々の社員は教員やタレントと同じ。何者やね（資質）、何がでけるねん（能力）、何してきたんや（業績）をポートフォリオでアピールする。総務職は経営スタッフで、そうした人材をクラス付けしてストックしておき、プロジェクトをやるのに、編成してコミッション契約するコーディネーターでなければなりません。経営はそうしたスタッフとキャラクターの中から経営感覚に秀で、業績を上げている者が当たる。幸い、我々の性質上、経営感覚を磨く機会には豊富にあるので、年齢や性別には関係はありません。経営改革“ビジョン”とは、一旦全てをご破算にして、根本の原理を創ること。そのテキストになります。

（取締役会長 みわ ひろし）



まちかど

長堀通は大阪の5番街になるか

坂井 信行

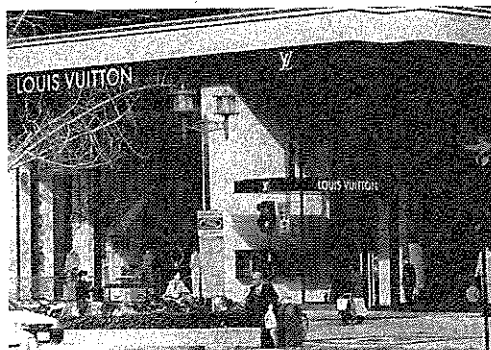
長堀通といえば少し前まではだっ広くて地下に駐車場があるだけという、どちらかといえば退屈なイメージの通りで、難波から続く心齋橋筋のにぎわいもここでひと段落といったところでした。ところが最近は少し事情が違ってきているようです。

それは地下鉄長堀鶴見緑地線と地下街のクリスタ長堀、さらに地上部でのシンボルロードの整備という一連の公共整備から始まりました。地下鉄の整備に際しては、かつて長堀通の中央部を流れていた長堀川が復元されました。といっても地下街の天井を波打たせ、それをガラス張りにして水に見立てるという方法がとられたのですが、これによって地下街が地上に顔を出すユニークな景観が生まれました。また地元関係者を含めたまちづくり協議会によって、道路の管理や建築物のルールづくりなどの取り組みも進められています。

こうした中、最近になって沿道には海外ブランドのブティックが次々と立地しはじめました。しかもCHANEL、LOUIS VUITTON、GIANNI VERSACE、ROLEXなど超一流のブランドです。大阪でもこの種の店はデパートやホテルの中にいわばコーナーとしてあることが多いのですが、独立した店舗として立地することで通りにはファッションストリートとしての顔をみせはじめました。

世界の一流店が軒を並べる通りといえばニューヨークの5番街を連想しますが、長堀通とは空間のスケール（特に幅員）が異なるため、通りの雰囲気はずいぶん違います。しかしこれまで大阪にはなかった高級感のある通りとしてのイメージは定着しつつあります。最近ではいわゆる“とんがった”若者はアメリカ村から長堀通をはさんだ北側の南船場界限に集まるなど、ミナミのにぎわいは長堀通へと、またさらに北側のエリアへと広がりをみせているようです。

(大阪事務所 さかい のぶゆき)



御堂筋の交差点に立地した
LOUIS VUITTONのブティック



以前は唐突にあった店も違和感がなくなった

アルパック (株) 地域計画建築研究所

- 本社 東京都千代田区千代田1-1-1
- 京都事務所 〒600-8007京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F / TEL (075) 221-5132 FAX (075) 256-1764
- 大阪事務所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F / TEL (06) 6942-5732 FAX (06) 6941-7478
- 名古屋事務所 〒460-0008名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F / TEL (052) 265-2401 FAX (052) 249-3925
- 東京事務所 〒160-0022東京都新宿区新宿2-5-16・露ビル401 / TEL (03) 3226-9130 FAX (03) 3226-9560
- 九州事務所 (株)九州地域計画研究所 〒810-0001福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F / TEL (092) 731-7671 FAX (092) 731-7673